

茨城県陶芸美術館 企画展

いばらき工芸大全 I ガラスの巻

プレス・リリース

平成26年1月2日（木）－3月23日（日）

ひ た ち の く に る り は り き こ う
常陸国、瑠璃玻璃紀行

(キャッチコピー)



各務鑛三（かがみこうぞう）飾皿「祈り」
1929年 カガミクリスタル株式会社蔵

茨城県陶芸美術館

〒309-1611茨城県笠間市笠間2345番地（笠間芸術の森公園内）
TEL 0296-70-0011/FAX 0296-70-0012
<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

1 展覧会名

いばらき工芸大全 I ガラスの巻

キャッチコピー：常陸国、瑠璃玻璃紀行

2 開催趣旨

A：一言でいうと（118文字）

茨城工芸の魅力を、陶芸にとどまらず紹介する試みの第一弾。古墳出土のガラス玉や一橋徳川家の伝来品、県内で所蔵されている各務鑛三・藤田喬平ら巨匠たちの作品、現在県内で活動する作家の作品など、古代から現代までの多様な「ガラス」約 90 点を紹介。

B：もう少しでいねいにいうと（281文字）

茨城工芸の魅力を陶芸にとどまらず、工芸全般に広げて紹介していく試みの第一弾。

古墳等から出土したガラス玉や一橋徳川家の伝来品、また、岩田藤七(1893-1980)・久利(1925-1994)、藤田喬平(1921-2004)、各務鑛三(1896-1985)ら日本の近現代ガラス工芸を代表する巨匠達の作品も、茨城県内各地で所蔵されている。

さらに、北茨城市のシリカや龍ヶ崎市のカガミクリスタルといった、ガラスを生産する工房や企業、茨城を拠点に制作活動を行っている個人作家も多い。

本展では、これら古代から現代までの多様ないばらきの「ガラス」約 90 点を一堂に集めて紹介する。

C：詳細にいうと（453文字）

茨城の工芸といえば笠間焼(陶器)、結城紬(染織)、春慶塗(栗野春慶)(漆工)などがよく知られているが、実はガラス工芸も忘れてはならない存在である。

古くは古墳等から出土したガラス玉にはじまり、一橋徳川家の伝来品、また北茨城市のシリカや龍ヶ崎市のカガミクリスタルといった、ガラスを生産する工房や企業、茨城を拠点に制作活動を行っている個人作家も多い。さらに、岩田藤七(1893-1980)・久利(1925-1994)、藤田喬平(1921-2004)、各務鑛三(1896-1985)ら日本の近現代ガラス工芸を代表する巨匠達や、ハーヴェイ・リトルトン(1922-)やダンテ・マリオニ(1964-)といった海外の作家たちの作品も、県内各地で所蔵されている。

この「いばらき工芸大全」は、茨城工芸の魅力を陶芸にとどまらず、工芸全般に広げて紹介していく試みである。今回はその第一弾として「ガラス」を採り上げ、古代(茨城県指定文化財を含む古墳の出土品)から現代までの、多様ないばらきの「ガラス」約 90 点を一堂に集め紹介する。

3 展示構成

出品総数 約 90 点

I 県内ガラスコレクション

I-1：古代から近代へ

古墳からの出土ガラス／一橋徳川家伝来品／ボヘミアのアール・ヌーヴォー

I-2：近現代ガラス工芸の巨匠たち

岩田藤七・岩田久利・各務鑛三・藤田喬平と世界の巨匠たち

I-3：現代の作家たち—シリカのコレクションから

II いばらきで活躍する作家たち

4 会期・会場等

会 期：平成 26 年 1 月 2 日（水）～ 3 月 23 日（日）（70 日間）

会 場：茨城県陶芸美術館 地階企画展示室

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで（入館は午後 4 時 30 分まで）

休館日：月曜日（ただし、1 月 13 日（月・祝）は開館、翌 1 月 14 日（火）は休館）

5 主催・後援等

主催／茨城県陶芸美術館

後援／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局

6 観覧料

一般 700(550)円／高大生 500(400)円／小中生 250(200)円

* () 内は 20 名以上の団体料金。満 70 歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方 [ただし 1 人につき 1 人まで] は無料。冬期休業期間を除く土曜日は高校生以下無料。

7 関連催事

◎県内在住本展出品作家と当館館長によるクロストーク

金子館長とのクロストークを通して、二人の作家が、自分の作品のテーマや技法について解説。

講師：阿比留生吾氏(ガラスによる彫刻を制作)

河上智美氏(吹きガラスによる普段使いのガラス作品を制作)

金子賢治(当館館長)

日時：平成 26 年 2 月 8 日(土)13:30～15:00

会場：多目的ホール(聴講無料)

定員：120 名(先着順)

◎ワークショップ 「切り絵フュージングに挑戦！」

フュージングとは、板ガラスの上にガラスを焼き付けて模様をつくる技法。今回は、板ガラスと顔料のシートを重ねて奥行きのある作品を作る。作品はブローチやペンダントに加工可能。制作後に焼きあげ、後日参加者の自宅に送付。

講師：土井朋子氏(ガラスアーティスト)

日時：平成 26 年 3 月 1 日(土)

午前の部 10:00～12:00 / 午後の部 13:30～15:30

会場：当館 1 階オープンギャラリー

定員：各回 20 名(小学校高学年以上)

参加費：1,500 円(材料費、送料など)

申込方法：電話または F A X にて事前申込(先着順)

TEL:(0296)70-0011 FAX:(0296)70-0012

◎ギャラリートーク ※企画展チケットが必要です。

担当学芸員が展覧会をご案内します。

平成 26 年 1 月 18 日(土)、3 月 15 日(土)いずれも 13:30～

8 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒309-1611 笠間市笠間 2345 番地(笠間芸術の森公園内)

TEL.0296-70-0011 / FAX.0296-70-0012

展覧会担当：学芸課 課長 山口 和子 yamaguti.kazuko@post.ibk.ed.jp

学芸員 飯田 将吾 iida.syougo@post.ibk.ed.jp

広報担当：企画管理課 主任学芸主事 中島 淳 kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

「いばらき工芸大全 I ガラスの巻」プレス・リリース用写真データ

掲載希望作品を広報担当：中島 e-mail:kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp までご連絡ください。
写真を掲載する際には、作品キャプションを併記してください。

*所蔵の表記のないものは個人蔵



<茨城県指定有形文化財>
三味塚古墳出土ガラス製丸玉
及びガラス製小玉
5世紀後半～6世紀初期
茨城県立歴史館蔵



一橋徳川家伝来
紅ビードロ瓶
茨城県立歴史館蔵



一橋徳川家伝来
緑ガラス花文様砂糖入
茨城県立歴史館蔵



ヨハン・レッツ・ヴィトヴェエ工房
「赤の現象」装飾の花器
1898年頃



岩田藤七
金彩三筋茶碗
1973年
茨城県近代美術館蔵



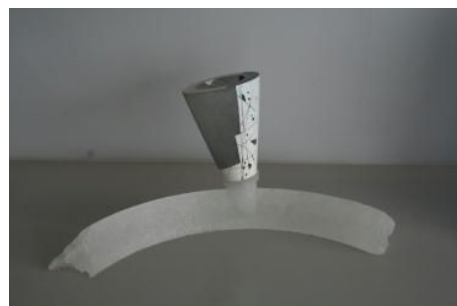
岩田久利
黒窯網掛壺
1986年
茨城県近代美術館蔵



藤田喬平
飾箱「紅白梅」
1994年
北茨城市蔵



藤田喬平
Apple
2000年



高橋禎彦
ARC
北茨城市蔵